

薬用植物フォーラム 2017

2017年7月11日(火)につくば国際会議場にて開催された薬用植物フォーラム2017(参加者約300名)において、生薬委員会 白鳥誠委員長が講演を行った。

薬用植物資源研究センターの川原信夫センター長が座長を務め、「薬用作物栽培振興への日漢協の取組み」と題して、次の内容で講演を行った。

- ・日本漢方生薬製剤協会について
- ・原料生薬に関する流通実態の把握
- ・生薬の国内栽培推進について
- ・今後の展開について

まず初めに、日漢協が実施した原料生薬使用量等調査や価格指数調査の結果を示し、原料生薬の約8割は中国産に依存していること、また2006年から8年後には価格が2.4倍に上昇した現状を示した。そして、それらの調査結果がもとになり、農水省と厚労省と意見交換が行われ3者が連携して「薬用作物の産地化に向けたブロック会議」が開催された経緯を説明した。

昨年度設置された薬用作物産地支援協議会が、ブロック会議に引き続いて地域相談会を開催し、個別相談にも対応するなど、一歩進んだ薬用作物の栽培振興の取組みを紹介した。生産者と実需者とのマッチング概況についても説明があり、折衝が成立するポイントなども示した。また、薬用作物の栽培に関して指摘されている課題をあげ、産官、関係機関、そして生産者との連携が重要であることを述べた。



演者: 生薬委員会 白鳥誠委員長



座長: 薬用植物資源研究センター
川原信夫 センター長